

週刊ブロック通信

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代表)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信
購読、広告の
お申し込みは
TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp
(株)公共事業通信社

防草ブロック5・4 km

坂内セメント 国道4号拡幅工事

坂内セメント工業所(本社、福

島県河沼郡柳津町大字細八字鴫ノ
巢甲三〇〇、社長 舟田詔光氏)
は、国道4号線拡幅に伴う中央分
離帯設置工事(国交省宇都宮国道
事務所発注)に防草ブロック(N
ETIS登録・CB105004
11V)約3800本を納入した。



近年は予算の制約もあり、道路
の除草費用は削減方向にある。ま
た警察からは渋滞を避けるため、
除草作業を夜間行うよう要請され
ているが対応は難しく、施工段階
から防草対策を施すことが不可欠
になっている。同社は施工業者か
ら「道路拡幅による中央分離帯の

設置に伴い、発注
者が防草対策を検
討している」との
情報を入力、独自
構造により雑草自
身が成長を止める
防草ブロックを提
案した。その結果、
当初通常の歩車道
境界ブロックで設
計していた総工事
延長約1万mのう
ち上下線合計53
90mで採用とな
った。

同社では一般の
歩車道境界プロッ
クで設計されてい
た全工区を回り、
個別に打ち合わせ
を実施。栃木県矢

板市とさくら市
を通る国道4号
線氏家矢板バイ
パスの片岡・さ
くら馬場・さく
ら・長久保の4

工区に、片面歩車道ブロックC防
草タイプ2mサイズを2219本、
0・6mサイズを1587本納入
した。発注者や施工業者の評価は
高く、今後も栃木・茨城両県の国
道4号線拡幅工事に防草ブロック
が採用される。同社では東北全域
に営業展開を拡大する方針。

防草ブロックは全国防草プロッ
ク工業会(会長 矢野明正氏)が
普及拡大を図る、植物が下向きに
は成長しない性質(屈光性)を利
用した製品。楔形の目地溝により
雑草は上に向かって伸長すること
ができず、自ら成長を止める。こ
のため歩車道境界ブロックなどの
コンクリート製品とアスファルト
舗装との隙間から雑草が繁茂する
のを防止することができる。今年
6月には平成25年度「環境賞」(主
催 日立環境財団、後援 環境省)
を受賞し優良賞に選ばれた。

コンクリート技

術大会を開催

講演論文募集

第3回コンクリート技術大会(郡
山)が10月31日・11月1日の両日、
日本大学工学部・日本コンクリー

ト技術・日本コンクリート製品フ
ォーラム(JPCF)の主催によ
りホテルハマツ(福島県郡山市)
で開催される。

コンクリート技術大会は、コン
クリート技術を東日本大震災の復
旧・復興に役立てることを狙いに
2011年10月、会津若松市で
第1回大会を開催。昨年は仙台市
で第2回大会を開催し延べ120
0名が参加する中、論文報告に加
え講演会や被災地視察などが行わ
れた。特に論文発表では新たな課
題として設定した「放射能関連技
術」の報文が27編中10編を占め、
同大会は震災復興に寄与する最新
のコンクリート技術情報発信の場
として確固たる地位を築いた。

第三回目となる郡山大会では「放
射能対策、震災の復興・復旧等に
貢献するコンクリート技術」をテ
ーマに、基調講演会・技術講演会
(論文発表)・パネルディスカッシ
ョン・被災地視察などが行われる
他、復興に貢献する技術や製品を
紹介するパネル展示会も併催する。
また日本コンクリート製品フォー
ラムの企画として経営者交流会も
行われる。

現在、技術講演会で発表する講
演論文を、①放射能②瓦礫処理・
復興材料③防災・減災④合理化施
工⑤その他、の各部門で募集して
いる。

【論文募集要項を8面に掲載】